



天茶っ子

2025年11月27日(木)
天下茶屋小学校
校長 清原良一

言葉はこだま

こだまでしようか

金子みすゞ

「遊ぼう」っていうと「遊ぼう」っていう。
「ばか」っていうと「ばか」っていう。
「もう遊ばない」っていうと「遊ばない」っていう。
そして、あとでさみしくなって、
「ごめんね」っていうと「ごめんね」っていう。
こだまでしようか、いいえ、誰でも

たった一言で、人は傷つき、たった一言で、人は笑顔になります。この詩は、言葉の大切さと、人と人が心を通わせる温かさを教えてくれます。言葉は、人から人へ響き「こだま」のように返ってきます。このメッセージは、人権週間(12月4日～10日)が伝える「誰もが大切にされる存在である」というテーマにつながっています。人権は、一人の人間として命が守られ、社会のルールの中で明るく楽しい生活を送る権利のことです。誰もがみんな、生まれた時からずっと持っている大切な権利です。子どもたちが「人権」という二文字の意味を正しく理解し、日々の生活の中でその大切さを意識して行動できるように願っています。

見えない学力

学力には「見える学力」と「見えない学力」があると言われています。「見える学力」とは、「計算できる」「漢字が書ける」など具体的な目標が比較的捉えやすく、数値化して成果を自覚しやすいものだと思います。一方「見えない学力」とは「非認知能力」とも言われ、「テストなどで数値化することが難しい内面的な力です。例えば「粘り強く頑張る」「自分の考えをもって表現する」「チャレンジする」「思いやりを持つ」「協力する」などの力で、子どもたちが人生を豊かにするうえでとても大切なものと言えます。また「見えない学力」は友達と協力して何かを創り上げたり、互いの意見を聞きあい調整しながら問題解決に取り組んだりと「他者とのかかわり」を通して多くを学ぶことができます。近年オンライン学習の普及により、学びの一部は学校に来なくても身につけることが可能になりました。しかし「非認知能力」は様々な人とのかかわり、つながり、学びあえる学校でこそ育める力であると考えます。日々の学習活動を通して培われる力でもありますが、運動会などの大きな行事は、さらにその力を伸ばす大きな節目となることでしょう。